



Fascinating Shapes in Ko-Imari II

# ハイライト たのしうつくし 古伊万里の かたち II

会期

2021年1月7日(木)～3月21日(日)

※会期は予告なく変更となる場合がございます。

概要

2020年2月末に、予定期を残したまま急遽終了とさせていただきました展覧会『たのしうつくし古伊万里のかたちII』を、出展作品を約70点に選りすぐり、改めて展観いたします。皿や瓶、水注など、人々の生活を飾った「うつくしいかたち」の作品をどうぞご覧くださいませ。

# 機能と美のコラボレーション

丸に四角、花、葉、瓢箪、鳥、兎、樽、団扇……。これらは古伊万里に見られるかたちの、ほんの一例です。

古伊万里とは、江戸時代に佐賀・有田を中心に作られた磁器・伊万里焼のこと。17世紀初頭に日本初の国産磁器として誕生したもので、試行錯誤を重ね、半世紀ほどで成形や絵付けなどの技術が飛躍的に向上。19世紀に入るまで国産磁器シェアをほぼ独占するとともに、西欧を中心に海外へも輸出されました。

有田では、国内外からの需要に応えて、多種多様な磁器を焼造しました。皿や鉢、猪口、瓶、西欧向けにはティーポットやシュガーポット、ワインカップなどといった器種としてのバリエーションはもちろんのこと、装飾としてのかたちも充実しています。轆轤成形のみならず、土型を活用したり、彫り文様を施したり、絵付けと組み合わせたりと、技術を駆使して自由自在に様々なかたちを生み出しました。

2020年2月末に、予定期を残したまま急遽終了とさせていただきました展覧会を、出展作品を約70点に選りすぐり、ハイライト版でお届けいたします。皿や瓶、水注など、江戸時代の国内外の人々の生活を飾った「うつくしいかたち」の作品を当時の美意識をキーワードにご紹介いたします。

## 《展覧会紹介文》 どうぞご活用ください。

### ■24word

「うつくしいかたち」の古伊万里約70点を展覧。

### ■51word

皿や瓶、水注など、江戸時代の人々の生活を飾った「うつくしいかたち」の古伊万里を紹介。約70点を出展。

### ■101word

2020年2月末に急遽終了した展覧会を、出展作品を約70点に選りすぐり、ハイライト版で開催。江戸時代、国内外の人々を魅了した伊万里焼に見られる「うつくしいかたち」を、当時の美意識をキーワードに紹介する。

※次項の作品①～⑤の写真データ等をご用意しております。ご掲載の際は、お手数ですが別紙写真借用申請書をお送りください。

## 《用途に合わせたかたち》

伊万里焼は江戸時代の人々にとって実用品や室内調度品であり、機能性がまず求められました。そのため、必要な用途に合わせて様々な器種が製作されました。加えて、機能だけではなく見た目も重要。機能と美を兼ね備えた優品の数々をご覧ください。



甕

## ①染付 山水鳳凰文 甕

伊万里 江戸時代（17世紀後半） 高27.0cm

水や食料を蓄える容器。江戸時代には茶色や灰色のシンプルな陶器や炻器が主流でしたが、清涼感ある染付磁器も。本作は水屋甕としても使えそうです。



水注

## ②色絵 凤凰花唐草文 水注

伊万里（柿右衛門様式）

江戸時代（17世紀後半） 通高16.5cm

西欧輸出向けの水注。S字上の注口と、大きな弧を描く把手の曲線が優美。



蓋物

## ③色絵 丸文 蓋物

伊万里 江戸時代（17世紀後半） 通高17.7cm

国内外向けに大きさも造形もバリエーション豊かな蓋物。西欧ではポンポニエール（菓子入れ）としても良し、そのまま室内調度品として部屋に飾っておいても良しと、重宝されたことでしょう。

## 《時代や地域によって異なる「美意識」》

現代のような多様化した時代にどんなものを「うつくしい」と感じるかは人それぞれ。個々人の感性があったのは江戸時代も同じでした。江戸時代と一口に言っても、実際には約260年の歳月があり、その中で流行は常に移り変わるもの。また、江戸と上方など、地域によっても好みは異なりました。需要者ありきの伊万里焼には、時代や地域の流行や好み、つまり江戸時代に混在した美意識が率直にあらわれています。



## 17世紀後半～

海外輸出の幕開けで、西欧の美意識が流入。

## ④色絵 花卉文 輪花皿

伊万里

江戸時代（17世紀末～18世紀初）

口径34.2cm



## 17世紀末～

上方好みの派手やかさと、江戸好みの「粹」が併存。

## ⑤染付 花唐草雲龍文 瓶

伊万里

江戸時代（18世紀前半）

高26.6cm

## 美術館概要

戸栗美術館は、創設者 戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、旧鍋島家屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里焼、鍋島焼などの肥前磁器および、中国・朝鮮半島などの東洋陶磁が主体であり、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



## 展覧会概要

※下記の内容は予告なく変更となる場合がございます。予めご了承くださいませ。

**名称：『たのしうつくし 古伊万里のかたちⅡ—ハイライト—』**

**会期：2021年1月7日（木）～3月21日（日）**

**会場：戸栗美術館**

**所在地：東京都渋谷区松濤1-11-3**

**開館時間：10:00～12:00／13:30～16:30**

(入館受付は閉館時間の30分前まで／12:00～13:30は館内消毒等の為、閉館いたします)

**※毎週金曜日・土曜日は10:00～12:00／13:30～16:30／17:00～20:00**

(入館受付は閉館時間の30分前まで／

12:00～13:30および16:30～17:00は館内消毒等の為、閉館いたします)

**休館日：月曜日・火曜日**

**※1月11日（月・祝）・2月23日（火・祝）は開館。**

**入館料：一般1,200円/高大生700円/小中生400円**

**※1月7日（木）～1月31日（日）は新成人の方は入館料無料。**

受付にて年齢のわかるものをご提示ください。

**交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分、京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分**

**※当館には駐車場・駐輪場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。**

### 展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館

広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-11-3

TEL : 03-3465-0070

FAX : 03-3467-9813

URL : <http://www.toguri-museum.or.jp/>

E-mail : [kouhou@toguri-museum.or.jp](mailto:kouhou@toguri-museum.or.jp)